

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくら

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400426		
法人名	社会福祉法人 憲幸会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字十日市85		
自己評価作成日	令和3年12月30日	評価結果市町村受理日	令和4年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で穏やかに安心して暮らせる居場所の提供</li> <li>・入居者、職員の垣根を超えた信頼関係作り</li> <li>・入居者家族との信頼関係作り</li> <li>・美味しい食事の提供</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園風景豊かな、金ヶ崎町境の奥州市水沢区佐倉河地区に立地し、同敷地内には系列法人が運営する「グループホームいちよの木」があり、行事等で交流している。医療面では、協力医療機関のまごころ病院まで車で10分の距離にあり、利用者の多くが訪問診療を利用し、利用者、家族は安全・安心を得ている。地域とは、コロナ禍が続く、夏の憲幸会祭りや秋の秋刀魚祭り等、交流を中止している。生活の楽しみの面では当事業所は男性利用者が多く、ホールには本を置いたり、日常生活では各々の特技を活かした役割を担っていたりしている。リクリエーションではトランプや百人一首など工夫を凝らしている。食事面では、調理師免許のある職員が中心となり、彩りや器にも配慮し、野菜嫌いの利用者も食べやすいよう調理し、3食手作りで提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝10時に夜勤者と日勤者のミーティングを実施。「一人一人に寄り添い、共に楽しく笑顔になれる生活」職員全員で唱和している。	事業所理念を事務所に掲示し、朝のミーティング時(夜勤・日勤4名前後)に唱和している。パンフレットにも記載しているが、理念の浸透に向けた職員間の話し合いが十分に行われていない。	理念は、ケアの根幹を成すものであり、言葉一つ一つについて会議等で話し合い、管理者、職員共に十分理解し、日々のケアサービスの充実につなげていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で奥州市にクラスターが発生したため、昨年以上に交流が出来ていない	コロナ禍のため、前年に続き地域交流を控えている。コロナ禍が落ち着いたら、以前実施していた、夏の憲幸会まつりや地域住民と一緒に秋のさんま祭り、認知症カフェ等を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で奥州市にクラスターが発生したため、昨年同様交流が図れていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の上、奥州市の高齢者施設でクラスターが発生した事もあり運営推進会議は開催を控えている	運営推進会議の委員は、民生委員3名、区長、駐在所長、市担当課職員、地域住民、利用者家族で構成されているが、地域包括支援センター職員、利用者は参加していない。今年度は、コロナ禍のため会議を開催していない。	運営推進会議は市担当課とも相談の上、切手貼付の返信用封筒や意見を書きやすいアンケート方式にするなどの工夫をし、文書等での開催を期待します。また、地域の情報が多く集まっている地域包括支援センターからも委員として参加していただき、サービスの向上を図ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から当法人の運営・活動についてご指導ご鞭撻を頂戴しております	市長寿社会課職員を運営推進会議の委員に依頼し、協力関係を構築している。利用者の状態低下に伴う、介護認定の区分変更の手続きに、管理者が市の窓口に出向き円滑に進めている。市の介護相談員が、年1回来所し利用者で面談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や資料等で身体拘束について周知している 介護抵抗の入居者がいるが状況を見ながら、無理ない程度に何とか拘束せずにお世話出来ている	身体拘束会議は、法人各事業所から施設長、管理者が参加する主務者会議に併せて、3か月毎に開催している。研修は、法人に講師を招いて実施している。インターネットでの研修にも参加している。物理的な拘束はないが言葉遣い等に留意し、必要時管理者が注意している。見守りカメラと離床センサーを使用している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティング・職員会議・担当者会議等で虐待防止については周知徹底している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の入居者はいないが成年後見を申請している入居者がおり、成年後見制度について管理者が資料を閲覧し職員にレクチャーした		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明時に不安や疑問点があるかお尋ねし、疑問があれば説明している。契約書で再度十分に説明しご理解・ご了承を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にて明示の他、日々の面会(玄関先のみ)病院受診時・物品補充の連絡時等様々な機会で見聞を聞く機会を設けている	家族からは、面会時や家族による受診時、物品持参時に意見・要望を聞いている。外出させて欲しい、体操させて欲しいとの要望があり、コロナ禍で外出は以前ほどできないが、最近では競馬場の桜を見に行っている(調査時4月15日)。工作、折り紙、百人一首、トランプ等、室内でのリクリエーションを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、不定期開催の職員会議の他、日常的に意見や提案を聞く機会を設け繁栄させている。	毎朝のミーティング以外にも、シフト関係や利用者のケアの内容、日々の業務について、意見や要望を聞き改善につなげている。家族からの要望もあり、コロナ禍で外出が困難なことから、室内でのリクリエーションを担当する職員を新たに設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の状況の把握に努め、職場環境・条件の整備に努めている		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修がコロナ禍で中止になるケースが多く、その中でオンライン研修や内部研修の参加を支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で残念ながら相互訪問や勉強会は見合わせている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人の成育歴・既往症・現況等を把握し、入居前に事前に本人と面談し、困っている事・不安・要望等を聞き、安心して入居してもらえるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前にご家族とも面談し、困っている事・不安・要望等を聞き、安心して入居を任せてもらえるように努めている、また病院からの退院の際には担当看護師(医師)医療連携室等医療関係者と退院カンファレンスを行いラポールを構築できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人の成育歴・既往症・ADL・現況等を元にアセスメント、本人・家族・居宅ケアマネ・退院の場合は担当看護師・医療連携室と情報共有した上で担当者会議を開催し本人と家族が必要とするケアサービスが出来る体制を整えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の時は職員も同じテーブルに座り一緒に食事している。また食器拭きやテーブル拭き洗濯畳み等職員と一緒に作業することで連帯感も生まれている		

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	備品の不足時・病院通院時・急変時は様子を伝達し情報共有、家族に連絡をとり来てもらっている。定期のさくら通信・遠方の家族にはタブレットでのネット面会を活用し絆を切れない様な工夫をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出(車の中から)は何度か試みたが、記憶がなく難しい。馴染みの人が面会されても本人が覚えていない。また今年はコロナ禍で面会出来ていない	コロナ禍で、馴染みの人との交流は控えている。ドライブがてら自宅前や小中学校前を通っても気づかない。市外からの面会者は、抗原検査をして玄関でのガラス越し面会を実施した。訪問診療医や看護師等が馴染みの関係者となっている。訪問理美容を1ヵ月1回程度実施しており、馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・カラオケ・トランプ・ドライブ・アウトドアでの会食等実施しているが、認知症のため個人個人のマイペースとなり、時には不穏になり共に関わり合うのは難しい		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も数か月はその後の様子を電話で聞いたり、家族さんの近況を聞いたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	成育歴・既往症・現況を把握した上で、本人・ご家族の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は再度カンファレンスし本人の意向に留意しケアを再検討している。	意思表示できる利用者は少なく、表情や動作から意向の把握に努めている。精神疾患や聴覚障害をお持ちの利用者は、それぞれ配慮が必要である。日によって状態が変化することもあり、介護記録や日々の申し送り等で、職員同士の情報交換を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時の家族からの聞き取り・フェイスシート・主治医の意見書・退院情報提供票をもらいこれまでの暮らし方や環境・病歴等の把握に努めている		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングでの申し送り・業務日報・個々のケース記録等で現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングでの申し送り・業務日報・個々のケース記録等でモニタリングし現状の把握に努め、必要に応じて居宅ケアマネ・病院の医療相談室とも連携しながら、家族の意向・要望を聞き介護計画書に反映している	管理者が介護支援専門員を兼務しており、入居時にアセスメントを行い、入居時の介護計画を作成している。介護支援専門員がモニタリングを行い、職員会議で介護計画案に対する意見を出し合った上で見直しを行っている。利用者毎に、介護記録の表紙に介護計画を貼付し、職員は毎日の記録時に計画を確認しながら記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の食事量・水分量・排泄・皮膚状態・バイタル・行動・言動・健康観察を記録し、職員間で情報共有し気づきがあれば逐一報告し周知している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のミーティングでの申し送り・業務日報・個々のケース記録等でモニタリングし現状の把握に努めているが、1日1日が精一杯で、ニーズに対応したサービスの多様化にはなかなか取り組めていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源との協働は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関があり、毎月訪問診療に来てもらっている。また急変の場合は同医療機関に連絡し指示を仰いでいる。救急の場合も対応してもらえるので本人・家族にとって心強い	協力医療機関から、毎月利用者毎に訪問診療の日時のお知らせがあり、担当医師が来所している。精神科等の専門医への受診は、家族の付き添いで行なっている。かかりつけ医を協力医療機関に変更する場合は、入居前のかかりつけ医から紹介状をいただき、協力医の診察を受けてから訪問診療を開始する仕組みとしている。訪問歯科も利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に1週間の入居者の健康状態を報告し、週1回訪問看護に来てもらい、健康状態の観察と適宜指導を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携医療機関との情報交換や相談は良好な関係を築けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居中に重篤な状況になった場合は、速やかに提携医療機関の主治医・家族に連絡し病院を受診してもらう。その際には主治医から家族に病名や病状の説明をしてもらうと共に、施設で出来る事、出来ない事を十分説明し、入院が必要な場合は入院の準備をしメンタル面の支援も出来るだけ行うように努めている	入居時に、看取りを実施していないことを家族に説明し理解を得ている。訪問診療や訪問看護師の訪問により、体調等の変化を早期に発見し、医療に結び付けている。重度化した場合は、入浴は二人体制で介助するなど、事業所で出来る最大の対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、マニュアルを作成しており、オンラインの研修も受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度も火災訓練は実施していない。地域の区長さんをお願いしている	緊急時のマニュアルや緊急連絡網を作成し、職員に配布している。今年度は、コロナ禍のため消防署立会いでの避難訓練は実施できなかったが、事業所のみでの避難訓練を実施している。	避難訓練について、マニュアルや緊急連絡網を再確認し、職員一人一人が災害時の対応をシュミレーションすること、夜間に訓練をし暗さの体験と課題を把握し検討することの二点の実施・検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	統合失調症の既往症の入居者が数名、精神病院通院中の入居者が数名います。1日の中で不穏と正常を繰り返かえていて、他入居への影響もありそれぞれ一人一人の対応に最新の注意を払っています。	利用者へは、苗字か名前に「さん付け」で声がけしている。生活歴や職歴、病歴等から配慮が必要な利用者が多く、自尊心を尊重し、ネガティブな話題に触れないよう慎重に対応している。利用者同士の会話にも配慮している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に希望や思いを聞く体制になっています。無理じいはず、入居者の自己決定を優先するように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援するように心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪で定期的に散髪、洋服は本人希望と職員の見立てでご家族に伝え持って来ってもらったり、着替えの際は本人に選んでもらったり職員がアドバイスしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食卓を囲み楽しく食事している。また片付けは一緒に行い、洗った食器拭き、テーブル拭きを手伝ってもらっている	献立は、日々の会話等から利用者の好みを把握し、取り入れ作成している。調理は職員が行ない、利用者と一緒に同じ食卓を囲んで食事している。利用者は、食材の下ごしらえはできないが、茶碗拭きやテーブル拭きなどの後片付けを職員と一緒にこなしている。男性の利用者が多く、野菜嫌いの方でも食べれるよう工夫し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量・水分量のチェックをし1日の必要量を確保できるように支援している。また、栄養バランスのとれた献立をネットで調べたり職員(調理師)と相談しながら見た目も美味しそうな料理を提供。食事携帯もミキサー食・刻み食・普通食と各個人に合った食事形態で出している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し口腔ケアの指導・チェック・治療をしてもらっている。毎食後職員が口腔ケアを促し、自力で出来ない入居者には介助、また磨き残しは介助にて汚れや臭いが生じないようにしている		



令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方・尿意便意のない方はリハパンやオムツ着用になっているが、定時のトイレ移動・声がけ・見守り等を行い、出来るだけ自力での排泄行為を促している	各居室にドア付きトイレがあり、昼夜居室のトイレを使用している。利用者は、個々の機能に応じ、布パンツやパット併用等、排泄用品を使用している。介護度が重い方も、夜だけおむつ使用にするなど、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給・食物繊維・医療との連携による整腸剤や便秘薬の調整をし定期的な排便を即している。また午前午後と体操をし身体を動かすようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず声がけにより2日に1回の入浴を実施。失禁の場合は「身体をきれいにしようか？」と失禁を気に病まない様な声がけでシャワー浴・入浴を実施	各居室に浴槽はあるが、共用の浴槽を使用している。一日おきの入浴とし、前日入浴していない方を優先し声掛けしている。冬場には、湯上り後にローションを塗布している。入浴を嫌う利用者には、入浴後の楽しい話をし、気分良く入浴できるよう誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように1日にメリハリを持って過ごしてもらっている。運動やレクをし心地よい疲労感を持って眠れる様に支援、就寝時の声がけは行うが本人次第になっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の医師や訪問看護師、薬局の薬剤師の指導のもと職員間で薬情を情報共有し周知している。また服薬は朝・昼・夕・就寝前と薬箱を用意しケースに収納し服薬したか職員がチェックできる体制を整えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のフェイスシートや聞き取りで趣味趣向を聞いておりレクや日々の過ごし方に取り入れている。また役割を持たせ張り合いのある暮らしが出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で奥州市にクラスターが発生したため、昨年同様戸外の外出は控えています。施設内・近隣への散歩・ベランダでのひなたぼっこ・降りないでドライブだけのレク等をしています	コロナ禍で、今年も戸外への外出は控えているが、「降りないドライブ」をし、桜見物や紅葉狩りに出かけている。天気の良い日は、敷地内や近所を散歩したり、ホールからデッキに出て日光浴をしている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や盗難の心配があるので施設ではお金を預かっていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望がある方、家族に会いたがっている方には家族に電話したりタブレットでネット面会してもらっている。手紙は来ても誰からかわからず捨てようとしたりする		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日差しがふりそそぐ広い空間を保ち、壁には季節ごとのディスプレイをし精神的にゆったり過ごせるような環境にある。ソファも座りごちの良いソファが2つありTVやビデオを観たりカラオケを聞いたりくつろぎの空間になっている	事業所は、水田や桜の木などに囲まれている。全館冷暖房となっており、ホールには、食卓、椅子、大画面テレビ、ソファ2脚が置かれている。男性利用者が多く、本を見るコーナーもある。外のウッドデッキに出て日光浴を楽しむこともできる。各居室にトイレがあるが、利用者はホールで過ごすことが多く、共用のトイレ(2箇所)も使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは一人で過ごせるスペース・会話スペース等シーンに対応した居場所スペースが作れる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願い、家族写真(遺影)・旅行写真等を飾ったり、使い慣れた家具やお気に入りの置き物を置いたりし居心地の良い空間を作っている	各居室には、ベッド、トイレ(ドア付き)、浴室、一口コンロが設置されている。使い慣れた家具や家族写真(遺影)が飾られ、それぞれの利用者が住みやすい居室となるよう配慮されている。テレビを持ち込まれている方もいるが、殆どホールで過ごして自室で観ることは少ない。掃除は職員が行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は廊下からでもわかるよう名札を立体化、居室の入り口にはお花の絵、本人が作った工作を飾っている。台所からホール全体が見渡せ見守りが出来る		